組合員数102,616人
支部数　936
読者数　64,404人
（12月月報）
〔連絡先〕☎03（5978）2751　FAX03（5978）2777
E-mail/honbu@nenkinsha-u.org
ホームページ/年金者組合と入力し検索して下さい。

年金者しんぶん

第410号　2024年2月15日（木）
（通巻第609号）
全日本年金者組合中央本部
〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル
発行人　杉澤　隆宣　月刊１部100円（組合費に含む）
昭和57年６月30日第三種郵便物認可

能登半島地震被災の
石川県本部に支援カンパ

中央本部が訪問し手渡す

㊤小倉石川県本部委員長（左）に支援カンパを手渡す杉澤中央本部委員長
㊦被災地を視察する本部役員ら

能登半島地震に対し年金者組合は1月9日中央本部に災害対策本部（本部長・杉澤委員長、事務局長・木田書記長）を設置し、被災組合員支援、全国の仲間にカンパ・支援の訴えなどを決定しました。杉澤委員長の現地支援レポートです。

◆杉澤委員長のレポート◆

「能登半島地震災害支援カンパ」第一次分を抱えて木田保男書記長と私が、氷雨ふる金沢に降りたのは1月23日の昼前。石川県本部の小倉恵美委員長、木村吉伸書記長と共に被災地に直行。市内から30分ほどの内灘町では内灘支部などの組合員約10人が迎えてくれました。拍手の中、全国支援カンパを小倉委員長に手渡しました。石川県の組合員は全員無事、避難所で頑張っているそうです。懇談後、液状化に見舞われた埋め立て地の住宅地を回り、惨状を目の当たりにしました。

◆石川県本部のレポート◆

輪島では年金者組合員もほとんどが避難所にいます。断水が続く羽咋へ県本部と支部で組合員訪問を行いましたが、液状化で亀裂や陥没など、深刻な状況です。県内各地で崖崩れや断水・停電・道路の陥没などが報告され、組合員の安否確認と被害状況が報告されています。

県労連、民医連、新婦人などで「災害被害者支援と災害対策改善を求める石川連絡会」を再開し、県内での共同の取り組みが始まりました。年金者組合は被災された組合員に寄り添い援助を行うとともに、県労連に結集し震災救援の活動に参加し、義援金や現地支援などの活動に積極的に取り組んでいきます。

（石川県本部）

県本部事務所に戻り、白山支部の仲間たちが全容が不明な北陸電力志賀原発にふれ、２００３年に「珠洲原発」建設を中止させた組合員が「反対運動の正しさが証明された」としみじみと語っていたのが印象に残りました。

物価高騰を上回る年金引き上げを

2024年度年金額改定について

全日本年金者組合が抗議声明

1月19日、厚労省は、2024年度の年金額を2・7％引き上げると発表した。年金月額10万円の受給者であれば、2700円の引き上げである。しかし、年金額の改定は名目ではプラス改定になるが、総務省の発表した2023年の消費者物価指数は3・2％であり、実質は0・5％減額されている。これにより安倍政権以降の13年間で公的年金は実質7・8％の減額となる。わたしたちは、このような減額改定を許すことはできない。大幅な実質増額こそ必要である。

全日本年金者組合は、物価高騰に見合った年金引き上げを求めてきた。生活改善につながらない今回の実質減額改定に強く抗議する。

＊

今回の改定は多くの問題点がある。

第1に、女性をはじめ低年金であえいでいる老齢年金、そして困難な生活を強いられている障害・遺族の各年金受給者にもマクロ経済スライドを適用し、実質減額となる改定率を適用したことである。物価高騰にも関わらず実質年金額引き下げとなる現行のマクロ経済スライドと年金額改定ルールは凍結し「特例措置」を実施すべきである。

国民年金法第4条には「年金の額は、国民の生活水準その他の諸事情に著しい変動が生じた場合には、変動後の諸事情に応ずるため、速やかに改定の措置が講ぜられなければならない」とあり、物価上昇に見合う年金額引き上げは政府の当然の責任である。

第2に、厚労省の改定の指標としている物価変動率3・2％も、高齢者・消費者の生活実態からかけ離れている。発表された23年12月の消費者物価指数は前年同月比生鮮野菜15・5％、乳卵類13・0％で、消費者の生活実感は「10％以上の物価高」であり、こうした高物価を踏まえた年金増額が求められている。

第3に、岸田政権は、国会で議論することなく一片の閣議決定で「安保3文書」を決定、「専守防衛」の政府方針をかなぐり捨て「戦争国家」づくりに踏み出し、5年間で軍事費43兆円、24年度予算だけでも昨年を1兆円も上回る7・9兆円も計上している。このための財源として、社会保障費を抑制し、国民に大きな負担を強いている。

＊

全日本年金者組合は、岸田政権の「戦争のできる国づくり」に反対し、すべての年金受給者が安心して暮らせる物価高を上回る年金額の大幅引き上げの実現を求めて奮闘するものである。

（２０２４年1月19日）

風雪

▼春になるといつも疑問に思う。奈良時代は梅の方が桜より人気があったというが、日本ではどうして桜が梅を圧倒するようになったのだろうと。

▽２０２３年の女の子の命名ランキングでも「咲良」17位、「さくら」43位、「桜」71位と三つも１００位以内にランクインしているのに、「梅琉」（める）、「悠梅」（ゆめ）などキラキラ調もあるのに梅はランク外である。（「たまひよ」集計）。

▼「桜はパッと散って潔いから」という人気の理由を聞かされるたびに、そうかと思いながら首をかしげる。また『政治改革』の見出しが新聞・テレビで踊っているからだ。

▽腐敗政治に対する怒りを受けての30年前の『政治改革』。小選挙区制と政党助成金が導入された。マイナスでしかないのに『政治改革実現』と報道され、政治腐敗追及はパッと散ってしまったかのようだった。不正・腐敗・汚職は桜ではダメ、梅でいかなければ。